

第2回 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和8年4月23日(木) 午後2時00分から午後5時20分まで
開 催 場 所	青葉区役所4階401～403会議室
出 席 者	<p><b>【選定委員会委員】</b>            委員長 北島 洋美(日本体育大学)            委員(50音順)                江口 一生(東京地方税理士会緑支部)                蕪木 泉(青葉区連合自治会長会)                島 美奈子(特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブパレット)                鈴木 智香子(NPO法人 街カフェ大倉山ミエル)                中村 喜代枝(青葉区老人クラブ連合会)                平野 香菜(青葉区民生委員児童委員協議会)                武藤 恵江(特定非営利活動法人中途障害者地域活動センター青葉の風)</p> <p><b>【事務局】</b>            青葉区福祉保健センター担当部長 今井 健太郎            青葉区福祉保健課長 岸田 純也            青葉区福祉保健課事業企画担当係長 橋口 猛            青葉区福祉保健課事業企画担当 平方 遥子、寺田 百花</p>
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開(応募団体の面接審査、指定管理者の候補者(以下、「指定候補者」という。)及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者(以下「次点候補者」という。)の選定に関する審議について非公開。)(傍聴者0人)
議 題	1 会議の公開・非公開について 2 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について (1) 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法 (2) 応募団体に対するヒアリングの実施について 3 応募団体の面接審査及び前期指定管理者の実績評価 (1) 法人1(社会福祉法人緑成会) ア プレゼンテーション イ 質疑応答 ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、財務状況評価の説明 (2) 法人2(エフィラグループ株式会社) ア プレゼンテーション

	<p>イ 質疑応答</p> <p>ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、財務状況評価の説明</p> <p>(3) 前期指定管理者の実績評価</p> <p>4 指定候補者の選定、講評</p>
<p>決 定 事 項</p>	<p>指定管理者の候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市青葉区長に報告することとする。</p> <p>横浜市たまプラザ地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人 緑成会</p> <p>次点候補者：エフィラグループ 株式会社</p>
<p>議 事</p>	<p><b><u>1 会議の公開・非公開について</u></b></p> <p>(事務局)</p> <p>応募団体審査、指定候補者及び次点候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認した。(第1回委員会で審議済み)</p> <p><b><u>2 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者公募について</u></b></p> <p>(1) 審査までの流れ、採点の考え方、選定方法</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。</li> <li>・最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。</li> </ul> <p>(2) 応募団体に対するヒアリングの実施について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公募の結果、2団体から応募書類の提出があった旨を報告。</li> <li>・提出書類は事務局で確認し、不備がない旨を報告。</li> <li>・資格要件を満たすこと、欠格事項に該当しないことを報告。</li> <li>・欠格事項のうち、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。</li> </ul> <p><b><u>3 応募団体の面接審査及び前期指定管理者の実績評価</u></b></p> <p>※審査・評価の際には、委員へは法人名は伏せて実施した。</p> <p>(1) 法人1 (社会福祉法人緑成会)</p> <p>ア プレゼンテーション</p> <p>団体から、団体の概要、事業計画等について説明。</p> <p>イ 主な質疑応答</p> <p>(委員) (地域活動を行っている) NPO 法人との関わりと事業の実績について教えてほしい。</p>

	<p>また、ナイトライブラリの頻度について教えてほしい。</p> <p>(団体) 子どもの居場所づくり、ボランティア養成講座、高齢者の居場所づくり (サービス B) 等を NPO 法人が運営している。さらに低出生体重児や障害児等の当事者団体への貸館や共催も積極的に行っている。</p> <p>ナイトライブラリは夜間貸館が空いている月 1 回を目指している。</p> <p>(委員) ①収支予算書の団体本部経費が 0 円となっているが、間接経費の取り扱いはどのように考えているか。</p> <p>②収支予算書の人件費、事務費、管理費が 5 か年で増加しているが、どのようなものを見込んでいるか。</p> <p>③指定管理料の提案数字について、上限まで少し余裕があるが、指定管理料を上乗せしてさらにサービスの向上につなげられる部分はないのか。</p> <p>質問ではないが、令和 6 年 3 月と令和 7 年 3 月の貸借対照表に数字のずれがあることが気になった。</p> <p>(団体) ①コロナ以降、本部も厳しい状況が続いている。令和 7 年度に回復したが、余裕がない中で計上するのはどうかと思い、正直な数値として 0 円とした。</p> <p>②今物価高騰や社会福祉法人以外の企業等の動向を踏まえ、今後の給与上昇は必須。事務費は D X 等も活用して抑えたいが、現実的には厳しい状況。明白な根拠はないが、これまでの傾向からプラスとした。</p> <p>③正直あったほうが良いが、抑えた。職員の人件費を上げたいところだが、現状の中では、与えられた予算内で対応したいと考えている。</p> <p>貸借対照表の数字のずれについては、税金の関係で生じている。</p> <p>(委員) 36 年間、地域に根差した活動をしていることは素晴らしいが、逆に自治会や老人会等、地域とのつながりが深すぎて、職員にとって心身の厳しさが増すのではないか。専門性は担保しつつ、問題を未然に防ぐために工夫していることがあれば教えてほしい。</p> <p>(団体) 地域との関係性を長く築いてきたが、無理難題を全面的に受け入れる訳ではなく、相互利益を得られる関係性を築こうとしている。職員のメンタルヘルスについて、研修や日頃のコミュニケーションを通じた配慮を行っており、地域からの要望が職員の負担になるとは感じていない。要望に精一杯対応し、難しい場合は理由を丁寧に説明し、落としどころを探ることが大切と考えている。</p> <p>(委員) 昨今、資格職の人材確保は難しい。法人内で確保できるとのことだが、余裕はあるのか。また、D X の推進を掲げているが、具体策やセキュリティについて教えてほしい。</p> <p>(団体) 人材確保について、たまプラーザは人気が高く、人材が集まりやすい。法人内では、介護施設等で働き、将来的には主任ケアマネジャーや社</p>
--	---

会福祉士の資格取得等を目指し、スキルアップをしている職員もいる。新規人材が育成できる環境、研修、フォローアップはある程度できていると考えているが、実態は厳しく、外国人も300名中10名ほど確保している状況。福祉専門学校や大学と連携を取り、新たな人材提供の流れがあることは法人としての強みだと考えている。

DXの推進については、便利な反面リスクを伴う。包括支援センター、ケアマネジャー、居宅の職員は非常に多忙であり、その一番の要因は記録なので、そこに生成AI議事録ツールを検討している。ワンタイムパスワード等の二重認証型セキュリティを設定しているものを選び、活用していきたい。

(委員) 子育て支援強化室とはどういったものか。また、たまプラザは子育て世代に人気の場所だが、新しくたまプラザに来た人と従来から定住している人とのつながりづくりのために工夫している点があれば教えてほしい。

(団体) 子育て用のプラザルームがあり、子育てに特化した事業を行っている。週3回、子どものフリーな遊び場を設けている。月齢別の時間設定や、保育士の常駐により、子育て相談や母親の悩みを聞く場を設けている。フリーな遊び場で、近い月齢の親子が仲良くなることもある。事業発信だけでなく、地域の様々な子育て支援活動が口コミで広がることによるつながりづくりをしており、フリーな遊び場が地域活動の発信源となっている。また、保育園等とネットワークを築き、地域の情報共有を行っている。旧住民、新住民のつながりについては、直接結びつけることは難しいが、場を提供することにより、自然発生的に交流が生まれている。

- ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、財務状況評価の説明
- ・事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
  - ・江口委員より財務分析結果報告書について説明。

(2) 法人2 (エフィラグループ 株式会社)

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明。

イ 主な質疑応答

(委員) グループ全体でバックアップする形を考えているとのことだが、株式会社の事業実績について詳しく教えてほしい。また、人材確保はグループ全体で行うとのことだが、職員が法人をまたぐ場合はどのような形となるのか。

(団体) 法人としては、保育（認可・企業・ひとり親家庭相談事業・産前産後支援）、高齢者のデイサービス（機能訓練型・一日型）、介護サービス（訪問入浴・訪問看護）等を受託している。職員採用は本部一括で行うが、異動の際は転籍もしくは出向となる。

(委員) 青葉区には 15 の連合自治会があり、たまプラザには大きな連合自治会があるが、連合自治会との関係はどのように築いていくのか。

(団体) まずは連合自治会や社会福祉協議会、民生委員との関係を作り、その後、NPO 法人やボランティア団体、住民主体の活動とも細やかに連携を取っていききたい。

(委員) ①決算書の立替金、短期貸付金、開発費の内容を教えてください。

②従業員の退職金規定および賞与規定はあるか。

③収支予算書の人件費が 5 か年同一だが、賃上げについてはどのように考えているか。

④収支予算書の団体本部経費の積算根拠と、収支がマイナスとなっている背景を教えてください。

(団体) ①立替金は、グループ会社への出向費。出向費はグループ会社が負担するものだが、グループ会社から 1 か月遅れて入金がある。短期貸付金は、従業員の定期券購入時や資格取得時に貸付する。開発費は 5 年前に新規訪問看護サービスを始めた際の初期投資費。

②退職金規定はある。賞与規定はないが、賞与相当を 12 分割して月額で支払いしている。退職金は給与手当に含まれている。

③人件費について、賃金水準スライド制度が適用されているため、それによる対応を予定している。

④団体本部経費は地域ケアプラザ運営のための総務、経理、給与計算等の人件費が含まれている。収支マイナスとなっているが、居宅介護や介護予防等による収入でプラスを想定しており、地域ケアプラザ、包括、生活支援、一般介護を総合して黒字となる見込み。

(委員) 会社の理念は地域ケアプラザに合っているが、このタイミングで応募した理由と、地域住民とどれくらい対話を重ねたかを知りたい。

(団体) 創業以来、応募したい思いはあった。人と人がつながる活気ある街づくり実現のために、1 つのサービスに偏らず総合的に取り組みたいと考えており、子育てから高齢者まで幅広く力になれる体制が整ったのが今回だった。

たまプラザの地域を知るために、まずは横浜市の総合計画や地区別計画等を読み込んだ。また、居宅介護支援事業者を訪問し、ケアマネジャーに地域課題やケアプラザに期待することをヒアリングした。8050 問題等や地域課題に対して意識の高い方が多く、地域活動が活発であることを聞き、今回の提案にも反映させた。

- (委員) 地域ケアプラザの役割として福祉避難所があるが、何名程度入所できるか。高齢者、障害者が対象だが、希望者が多い場合はどのように人数や対象者を選択するのか。また、あおば災害ネットについて具体的な計画があるか。
- (団体) 福祉避難所の運営マニュアルを整備する。具体的な人数は未定だが、面積等から割り出す。多目的ホール2という広い部屋を有効活用していきたい。あおば災害ネットについて、地域ケアプラザだけでできることは限られているため、民生委員と連携し、登録の推進や広報活動を担っていく。訪問時や利用者への周知、防災に関する講座等で周知していきたい。
- (委員) 地域ケアプラザというと地域住民参加型の事業が多い印象だが、地域住民に参加してほしいプログラムがあれば教えてほしい。
- (団体) 提案書 28 ページの自主企画事業にあるように、子どもや子育て分野、高齢者分野、障害者分野、多世代分野、等に分けて計画している。他自治体の地域包括支援センターとは異なり、地域ケアプラザは世代を問わず誰でも足を運べる施設であるところが特徴で、支援が必要になったときに思い出してもらえよう、周知活動が大切。様々な世代を対象に事業を行いたい。高齢者事業は自主活動化も手助けしたい。グループ内にプロバスケットボールチームがある。スポーツを通じて人と人をつなぎ、体育館等の皆が集まる場等を生かしてコミュニティづくりをしていきたい。人が集まる空間づくりの経験が、地域ケアプラザの運営にも生かせると考えている。
- (委員) 地域住民に地域活動の主体者を担っていただくためのアプローチの仕方について。
- (団体) 受身から担い手に転換させる仕組みづくりが必要と考えている。若い世代や学生ボランティア等にも働きかけ、若い力を発揮できる場を作っていきたい。地域の方が主体になりたいと思う環境を作っていく。
- (委員) 本日発表している方は、推進事業部のスタッフとのことだが、所長や運営側になる職員の想定は。
- (団体) 新事業立ち上げの際は、まず推進事業部が専門家の助言を得ながら準備していく。中長期的に事業の責任者として残るということはないが、事業推進部が所長やスタッフと伴走しながら事業展開していく。最終的には代表者が責任者となり、任せきりということはない。
- (委員) 青葉区では担い手確保が非常に重要。発表内容は良いと思う反面、冒険とも感じる。スタッフの中に青葉区在住者はどのくらいいるのか。
- (団体) 未定だが、地域密着サービスであるため、地域住民から採用することが基本と考えている。不足がある場合には、近隣地域から採用することもあるだろうが、基本的には在住者で運営したい。

- ウ 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、財務状況評価の説明
  - ・事務局より本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況について説明。
  - ・江口委員より財務分析結果報告書について説明。

- (3) 前期指定管理者の実績評価  
事務局より前期実績報告書について説明。

#### 4 指定候補者の選定、講評

応募者から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点（基準点）
指定候補者	社会福祉法人 緑成会	1,263／2,010 点	1,179 (1,044) 点
次点候補者	エフィラグループ 株式会社	1,126／1,920 点	1,075 (1,044) 点

(指定候補者に対する審査講評)

- ・現場を大事にして寄り添っている姿が素晴らしい。これまでも良いサービスを提供してきたと思うが、甘んじることなく、次期にはまた素晴らしいサービスを提供してほしい。実績をアピールする力をつけてほしい。
- ・立地の環境を生かして、多世代の人に利用してもらえる場所を目指してほしい。離れたところからも利用できる施設になってほしい。
- ・前期指定管理者ですでに運営されている法人であるため、安心・安全だが、チャレンジもしてほしい。
- ・子どもの居場所づくり事業や新しい事業を推進してほしい。立地が良いため、他の地域ケアプラザのお手本になってほしい。
- ・新旧住民、様々な人がいる地域。その一人ひとりを上手く結び付けてくれるような役割をしてほしい。
- ・他の自治会で、地域ケアプラザと合同でイベント等の事業を実施しており、密接な関係が続けている。立地条件は地域により異なるが、事業の共催や情報交換ができれば良いと思う。
- ・財務の面からは控え目な指定管理料。5年目には上がっていたため、指定管理料を有効に活用してより良いサービスの提供を期待したい。

(次点候補者に対する審査講評)

- ・目新しい提案が多く、全体として整理された印象を受けた。一方で、指定管理

	<p>の実績がないことから、実現可能性や具体性の面においてやや課題が見受けられた。また、地域資源を生かした提案が乏しいように見受けられた。ただし、指定管理者の多くが社会福祉法人で占められ、運営が保守的な傾向にある中で、当該法人は関心を引く新規性のある提案を示しており、今後の取組に期待したい。</p> <p>応募団体の得点は最低制限基準を満たしているため、選定委員会として、指定候補者として社会福祉法人緑成会、次点候補者としてエフィラグループ株式会社を選定することを決定する。</p> <p>なお、法人に対する質問の中で指摘があった社会福祉法人緑成会の貸借対照表の差異については、事務局が改めて法人に確認する。</p> <p>※後日、法人から差替え版の貸借対照表が提出され、内容に問題ない旨を、事務局と選定委員会が確認した。</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p><b>1 資料</b></p> <p>(1) 応募書類一式  (2) 採点表  (3) 前期の指定管理業務の実績報告書・事業実績評価結果（令和4年～6年度）  (4) 財務状況に関する外部評価の結果  (5) 選定方法及び最低制限基準について（第1回選定委員会配布資料）  (6) 応募法人に対するヒアリングの実施方法について（第1回選定委員会配布資料）  (7) 第1回選定委員会議事録  (8) 第2回地域ケアプラザ指定管理者選定委員会の開催スケジュール</p> <p><b>2 特記事項</b></p> <p>特になし</p>